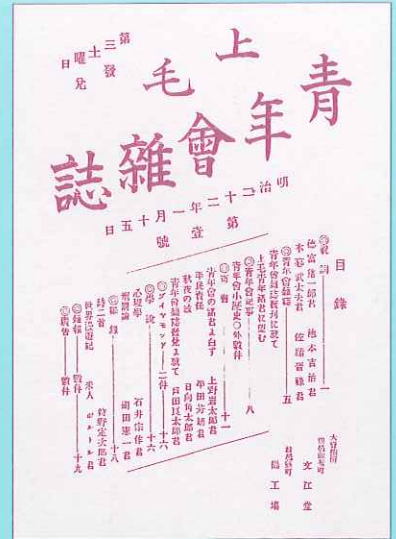




復刻版
上毛青年社 発行
一八八九年二月
一八九六年一〇月



日本の廃娼運動をリードした群馬・青年会運動の記録！

群馬県でとくに西上州を中心として活発な活動を繰り広げていた政治的青年団体のひとつである上毛青年会の機関誌として創刊された本誌は、同会が上毛青年連合会へと発展すると同時に『上毛青年会雑誌』から『上毛之青年』へと改題される。

本誌の最大の特徴は、はつきりと全国の廃娼を目的としていたことにある。本誌創刊の前年は、一八八三年に県令となった廃娼令の実行期限にあたる年であったにもかかわらず、貸座敷業者の猛烈な反対運動に屈した県知事が廃娼の実行を延期したため、議会内外で廃娼運動が巻き起こっていた。議会内

『上毛青年会雑誌』改題

じょうもんのせいねん

上毛之青年

全二巻別冊一

不二出版

でも湯浅治郎ら啓蒙派が知事の横暴に対し断然反対し、また上毛青年会も廃娼実現のために各地で廃娼演説会を開き、県議会には廃娼建議を提出した。本誌は、ついに一八九一年に再び廃娼令を勝ちとった、今でいう市民の手による廃娼運動の記録である。置娼運動の再然した一八九六年、一旦は終刊した本誌も再刊され、短期間発行された。

こうして公娼廃止の実現後も貸座敷業者は執拗に置娼案を県議会に提出するが、弁護士やジャーナリストも加わって、ついに群馬県は今日まで廃娼県であることを維持する。

日本近代史における廃娼運動の先駆の記録として、幻の資料をここに復刻する次第である。

荻原進 群馬県史専門委員長

熱血ほとばしる青年会資料

明治の前半期は日本史上最も大きな変革を遂げた時代であった。しかもその担い手は青年層であった。政治、産業経済、教育など凡ゆる部門において欧米文明に追いつけ追い越せをスローガンに時代の先端を走った。群馬県前橋の青年たちは、封建制下における若い衆、若者仲間の呼び名を全国でもいち早く「青年会」と改称した。中心となったのは新島襄の系統を引くキリスト教の青年有志であった。社会を正し、批判し、行動した。しかも思想の自由、出版の自由を両手にかざし、機関誌「上毛之青年」を創刊した。創刊号は帝国議會を開く前年の明治二十二年のことである。それまでの実行運動に言論を加えることになった。やがて全県的に読者をふやしたが、特に公娼廃止運動は、言論と実行によって進歩的な県會議員とともに明治二十六年二月三十一日に全国で最初に実現している。その中には住谷八朗（天来）やのちに民友社に入り活躍した塚越芳太郎（停春楼）などがいた。この壮挙を知る上に同志は他に例を見ない青年会資料である。そのほかにも帝国議會の第一回選挙の政治論など熱血ほとばしる文章が掲載され、徳富蘇峰、植木枝盛、巖本善治などの寄稿もある。今回、不二出版が二、三欠号はあるが大体を集大成したことは高く評価される。

高橋喜久江 日本キリスト教婦人矯風会

民主主義の底力を見せる公娼資料

群馬県は日本の公娼運動史に関心をもちつものにとつて注目すべき県といわねばなりません。日本の牢固たる存在の公娼制度——政府が売春業者の存在を公認する制度——を、明治期から否定してきて現在に至った唯一の県が群馬県です。その群馬の公娼運動を支え推進してきたのが、この「上毛之青年」です。青年たちの言論活動が運動の原動力になりました。

売春——現在では買春をこそ問題としたいのですが——をなくすために政策としてまず採るべきは公娼制度の廃止です。国家が売春業者の存在を法的に否定することが出発点です。日本政府はその愚を悟ることまことに遅く、やつと売春防止法を制定した後もまたぞろ他法により個室付浴場業の存在を許しています。公娼制度をばびこらせる日本の精神風土が、「従軍慰安婦」の国家的犯罪をも引き起こしたと私は主張しています。

そのような日本社会にあつて群馬県は早くから先覚者たちの活動によって公娼制度と絶縁してきました。すぐれた個人々人の存在、それをつなぐ言論活動、政治に反映させる力など、まさに民主主義の底力を感じさせられます。なぜ群馬県にできて他の多くの府県でできなかったのか、歴史の皮肉を感じさせられますが、「上毛之青年」の存在が大きかったのも歴史の真実でありましょう。

上毛之青年第拾壹號

(明治二十二年十一月十六日發兌)

上毛之青年

公賣淫背理論

世の卑劣、破廉恥なる政事家が厚顔も噴々賣淫公許の利益を稱揚して、之を今日も廢するの甚だ不可なるを説き、敢て彈る所なきものゝ如きは果して是れ如何なる故ぞや。蓋し其論據とする所は唯だ左の數條に過ぎざるべし、曰く密賣淫を制し兼て梅毒の蔓延を防ぐなり、曰く社會一部少數の墮落を犠牲に供して、以て其全部多數の道德を保全し、所謂毒を以て毒を洗ふの奇績を奏するものなりと。公賣淫果して如斯き效力を有するものなる乎、余輩固より之を信ずると能はず、否啻よ之を信ずると能はざるのみならず、却て全く是

上毛之青年

れど反對の結果あるべきを認むるものなり。然れども

是れ今日余輩が此に論ぜんと欲する所の本旨も非ざるを以て暫く彼等が言ふ所の如く果して此效力ありと假想するも、唯に此效力ありと言ふの故を以て公賣淫は長く之を社會に存在せしめざる可らずとの道理を有するものなりと爲すを得べきや。

夫れ社會、國家の組織せらるゝは何の爲めぞや他なし外來の妨害を防ぎて人間各自も固有せる天賦の品性を保全し、之を自由に開發増進して終り完全至高の地位に到達せしめんと欲するも外ならず、左れば世に政府の設けあむも亦た唯だ以て此目的を遂んが爲め已。此以て政府の職任たる一方は於ては苟も人發に妨害ある所のものに於ては之を除去するを(消極)又た他の一方に於ては各人の品性を保護して、自由よ之を發達増進せしむるの義務あるも(積極)。豈は夫れ政府として唯は其事の爲政治上利便ありと云ふの故を以て、全く之が理非、曲

関連図書(復刻版)のご案内

上毛教界月報

全11巻・別冊1

柏木義円 主宰(明治31年、昭和11年刊)
群馬県安中教会の牧師・柏木義円が創刊し、四五九号にわたつて月刊で刊行され続けた「上毛教界月報」は、政府の宗教政策すなわちキリスト教への介入・利用を嫌い、臣民教育に真向から反対し、社会主義思想を取り上げる中で、義円独自のキリスト教人間観を打ち出し、半封建的・帝国主義国家への批判を、足尾鉍毒事件や廢娼問題を初めとする、直面する時々の問題を通じて、鋭く論じている。

別冊「解説(武 邦保)・総目次・索引」
A4・B5判・上製・函入・総6、200頁
本体揃価格188,000円
別冊のみ分売可「本体価格3,000円」

聖化

全2巻・別冊1

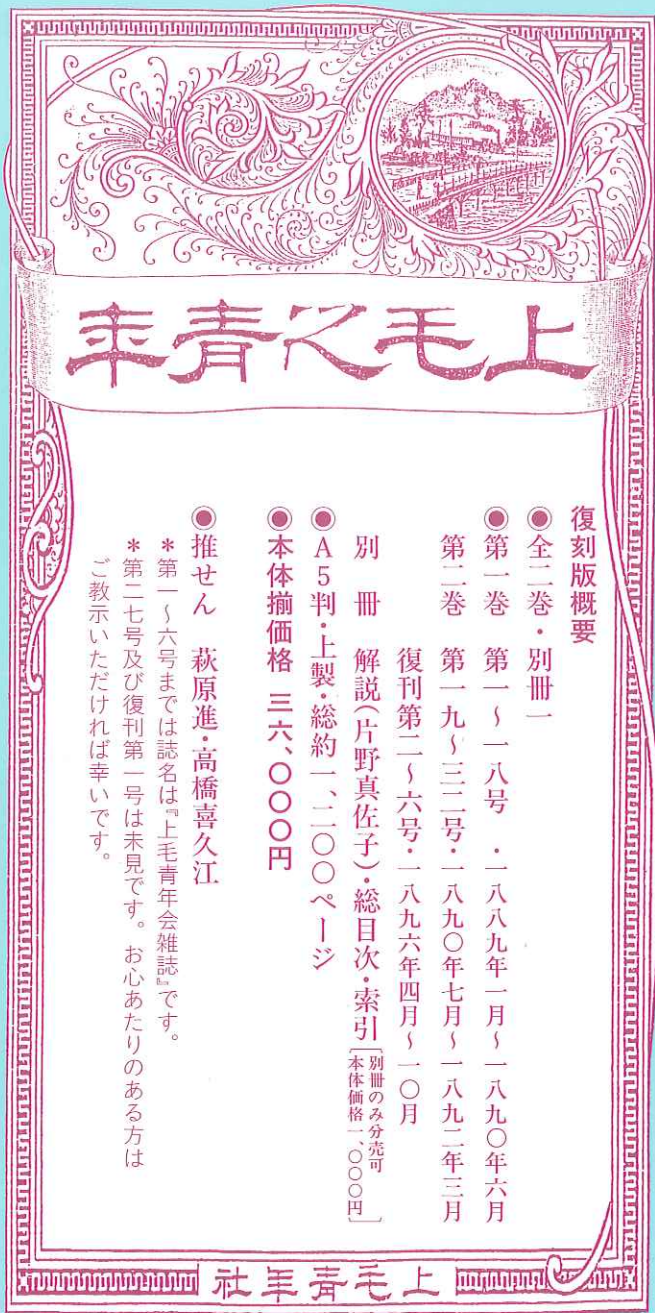
住谷天来 主宰(昭和2年、昭和14年刊)
本誌は、群馬県甘楽(かんらく)教会の牧師・住谷天来が一五年戦争直前の一九二七年に創刊し、一九三九年警察の命令によって廢刊を余儀なくされるまでの二二年間、軍国主義の時代に刊行されたキリスト教雑誌である。批判的精神に満ちた人間尊重の思想に基づいて、日清戦争以来一貫して非戦を説いてきた天来独自の平和思想が結実した反対制・反戦争の雑誌として貴重な資料である。

別冊「解説(門奈直樹)・総目次・索引」
B5判・上製・函入・総830頁
本体揃価格36,000円
別冊のみ分売可「本体価格1,000円」

群馬県の公娼運動史

- 一八八二年 湯浅治郎・萩原謙太郎ら県議(明治15)会に「娼妓廢絶の建議」提出。貸座敷業者、湯浅治郎を襲撃。県知事権取素彦、一八八三年六月限り貸座敷営業及び娼妓稼一切を廢止すると布達。
- 一八八八年 青年政治団体上毛青年会結成。後継の佐藤知事、廢娼実行の直前になって公娼廢止無期延期令をだす。県議會騒然。
- 一八八九年 「上毛青年会雜誌」創刊。七月、上毛青年会、各地の団体を糾合して上毛青年連合会を設立。「上毛青年会雜誌」。
- 「上毛之青年」に改題。
- 十一月、同会、県議會に廢娼建議を提出。前橋市で廢娼懇親会開催。県議會「娼妓及び貸座敷営業廢止の建議」可決。
- 一月、前橋で廢娼大懇親会開催。上毛青年連合会は日本廢娼同盟会への加盟を決議。
- 一八九〇年 三月、「上毛青年の初陣」出版。五月、東京で日本全国廢娼同盟会開催。
- 一八九一年 一月、「上毛之青年」休刊。県議會解散。
- 一八九二年 「上毛之青年」再び休刊。県議會に公娼設置建議。提出。
- 一八九四年 県議會で公娼建議「可決」。
- 一八九五年 「上毛之青年」改号して復刊。
- 一八九六年 「上毛之青年」改号して復刊。公娼派の廢娼後の密娼増加説に対し廢娼の有効性を論証。神山県知事、前橋からの公娼設置要求請願を拒絶。ここに廢娼運動は実を結ぶ。
- 一九〇九年

内容見本



上毛之青春

復刻版概要

●全二巻・別冊一

●第一巻 第一〜一八号 一八八九年一月〜一八九〇年六月

●第二巻 第一九〜三二号 一八九〇年七月〜一八九二年三月

●復刊第二〜六号 一八九六年四月〜一〇月

別冊 解説(片野真佐子)・総目次・索引 〔別冊のみ分売可
本体価格一〇〇〇円〕

●A5判・上製・総約一、二〇〇ページ

●本体揃価格 三六、〇〇〇円

●推せん 萩原進・高橋喜久江

*第一〜六号までは誌名は『上毛青年会雑誌』です。

*第二七号及び復刊第一号は未見です。お心あたりのある方は

ご教示いただければ幸いです。

上毛青年社

●関連図書へ復刻版のご案内

廃娼

全一卷

廃娼雑誌社 発行

『廃娼』が創刊された一八九〇年は東京や群馬など各地でキリスト者を中心に様々な形で廃娼運動が盛り上がっていた時期であった。本誌は各地の廃娼運動の状況を克明に伝えると同時に、婦人矯風会の佐々城豊寿、『毎日新聞』の島田三郎、そして巖本善治、植木枝盛、横井時雄など、錚々たるメンバーが廃娼論を展開している。

内容 第一号〜第八号 一八九〇年四月〜一八九一年三月

解説(竹村民郎)・総目次・索引付

体裁 菊判・上製・函入・総三二六ページ

本体価格 九、〇〇〇円

●弊社は注文制です。お近くの書店にご注文ください。

表示価格は全て税別

不二出版

東京都文京区向丘一丁目二二番一三
TEL03(3812)4433
TEL03(3812)4433
FAX03(3812)4464